

白さぎ

No. 50
2019.1.25



2018年から西村夕城新会長による新体制スタート！
2019年のメイン行事「白さぎ交流会」「白さぎ吟行会大阪大会」
をみんなの力で成功させよう！

■目 次	2
■巻頭ご挨拶 会 長〈西村夕城〉	3
■平成31年 白鷺新年互礼会	3
■平成30年度 実態調査結果について	4
■関吟総本部主催全国競吟大会に於ける白鷺会員の結果	4
■平成30年度 総会報告	5
■展 望 攝 友 会 〈森口雪孝〉	6
鷺 恵 会 〈酒井翔恵〉	7
■第57回白さぎ吟詠の集い競吟大会の結果報告	8
■白さぎ座談会「新会長西村夕城先生を囲んで」	9
■「白さぎ交流会」のご案内	12
■白さぎ吟行会 大阪大会 IN 大津・案	13
■周年大会	
攝友会創立60周年記念祝賀会 〈岳野恍輔〉	14・15
船場吟詠会創立50周年記念大会 〈市川朋森〉	16
関大吟詩部再発足65周年大会 〈塩路澄誠〉	17
■講師・支部長奮闘記	
関大吟詩部 〈齊藤鷺鉄〉	18
青 誠 会 〈川角誠庵〉	19
鷺伸吟詠会 〈森川源伸〉	19
鷺声吟詠会 〈森 壘声〉	20
■シリーズ 教室探訪コーナー	
鷺郷吟詩会 海老江八坂神社 広報部 〈佐川駿声〉	21
淞 苑 会 桜井道場、水曜文殊教室 広報部 〈塩路澄誠〉	22
■白さぎ地方の話題コーナー	
岳豊会日高支部「作楽神社」を訪ねて 〈宮下岳恭〉	23
■機関紙のコーナー 鷺照吟詠会会報 〈木南駿照〉	24
■史跡探訪の旅	
藤樹書院を訪ねて 広報部 〈天田澄慈〉	25
藤澤黄坡先生の遺跡を訪ねる 広報部 〈天田澄慈〉	27
■女性部だより 女性部長 〈加藤扇郊〉	29
■青年部だより 青年部長 〈中岡蒼狼声〉	30
■白鷺連合会組織系統一覧	31・32
■楽しく和やかに一心向上	
本年もよろしく申し上げます	33・34
■編集後記	35
■行事予定	36

新年にあたって

白鷺連合会
 会長 西村 夕城



会員の皆様には健やかに新年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。

今年の5月1日は、平成天皇陛下の生前退位により元号も新たになるという歴史的な新年

の始まりとなります。

私たちも「やれ高齢化・吟友減少」と嘆き節は置いといて、60周年に向かって「和と奉仕の精神」そして「一生初心」を基本に、標語とし

て掲げている「明るく楽しく&明日を描いて温故新生」の思いを新たにして、皆様と白鷺連合会の明日を描きたいと思います。

新体制になって2年目に入ります。幸いにも副会長・常任理事の方も「やる気満々、奉仕の心」をお持ちの方達ばかりです。大いに議論もして明日を描きたい、そして地方の方との距離を縮める手法を検討出来ればと思います。

皆様とはお会いする機会も少なくして申し訳ありませんが、メールでも電話でも意見を頂ければ幸いです。本年も宜しく申し上げます。

平成31年 白鷺連合会 新年互礼会 開催

白鷺連合会新年互礼会が、1月19日(土)「大成閣」において開催されました。

午後4時からセレモニーの司会進行役である谷澤暁声総務部長が開会宣言を述べられ、岡田勝利副会長による亥年にふさわしい猪突猛進で諸行事への精力的な推進を願う開会挨拶がありました。続いて大取鷺照副会長先導による関西吟詩会歌、森口雪孝副会長先導による巻頭言唱和、飯田報鷺副会長先導による白鷺連合会会歌とそれぞれ声高らかに合吟されました。

会長挨拶として、西村夕城会長からは白鷺連合会運営に関する会員皆様の日頃からのご支援ご協力に対して感謝の言葉があり、今年の行事である「白鷺交流会」では、温故新生のために白鷺のルーツを顧みる講演も企画したいとのお話がありました。つづく代表挨拶として伊東鷺伸顧問から、伊豆丸鷺洲師の教えの如く「和と奉仕と感謝の気持ち」で関西吟詩を支える白鷺連合会会員の奮闘への期待と激励が述べられました。

いよいよ、これからお待ちかねの懇親会です。司会進行役は中岡蒼狼声青年部長率いる若手青年部員にバトンタッチされ、まず始めに植村鷺登顧問のご発声で、乾杯・宴の幕が開きました。

各人は杯を酌み交わし旧知を温め談笑・情報交換がなされ、歓談の時間が過ぎる頃に、恒例

のテーブルごとによるカラオケ懇親も行われました。宴もたけなわ、時間はアツという間に過ぎてまいります。酒井翔恵副会長の閉宴挨拶、山根鋒孝相談役の音頭により万歳三唱で閉会しました。

名残尽きないなか、心の底から湧き出る白鷺の団結力、白鷺の輪・絆を垣間見る気がしました。白さぎは、ますます元気はつらつ！今年もこの気概で頑張りましょう♡

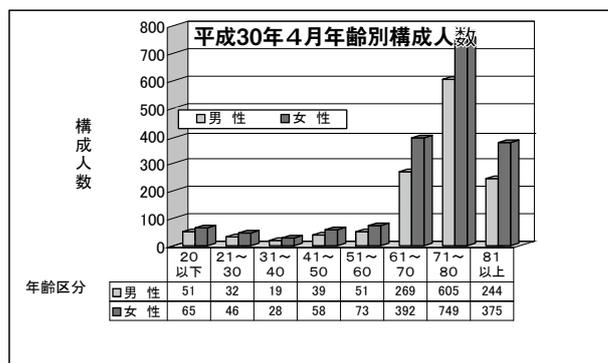
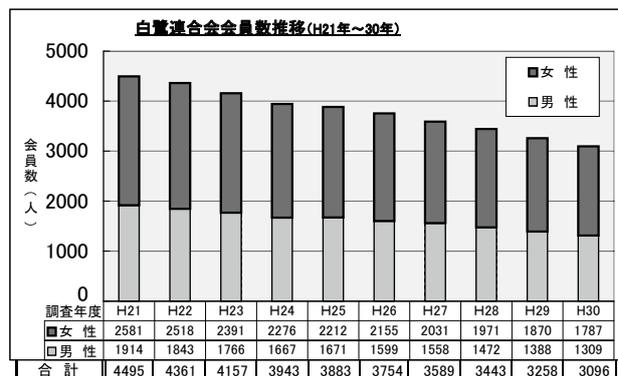
記 塩路澄誠



平成30年度 実態調査の結果について

総務部で毎年実施している実態調査につき平成30年度の結果を報告します。

(総務部所管)



調査年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
男性	1914	1843	1766	1667	1671	1599	1558	1472	1388	1309
女性	2581	2518	2391	2276	2212	2155	2031	1971	1870	1787
合計	4495	4361	4157	3943	3883	3754	3589	3443	3258	3096

年齢区分	20以下	21~30	31~40	41~50	51~60	61~70	71~80	81以上	合計
男性	51	32	19	39	51	269	605	244	1310
女性	65	46	28	58	73	392	749	375	1786
合計	116	78	47	97	124	661	1354	619	3096

関西吟詩総本部主催全国競吟大会に於ける白鷺会員の結果

◆平成30年度 新人中間層競吟大会 結果報告☆

平成30年11月11日(日) 於 エーリック(尼崎)

<新人の部>

優勝：菅沼 裕行 (浜松鷺長会)
 準優勝：佐藤 昌子 (鷺照吟詠会)
 4位：疋田 稔 (鷺迪吟詠会)
 7位：高嶋 京子 (岳豊会)

入賞(プロ順)

第1部 中山 英甫(攝友会) 岩崎佐恵子(志舟会)
 第2部 牧野ちよみ(鷺迪吟詠会)
 山本 末治(鷺伸吟詠会)
 第3部 阿藤 成子(攝友会) 藤山亜莉沙(成秋会)
 第4部 田中 早苗(岳豊会)
 竹原 美子(鷺照吟詠会)
 元井 晃司(岳豊会)

<初級の部>

準優勝：牧 紅葉 (鷺伸吟詠会)
 6位：上田 智祥 (攝友会)

入賞(プロ順)

第1部 服部 幸子 (鷺伸吟詠会)
 第2部 赤羽根照子 (広島鷺雲会)

<上級の部>

7位：百合 正和(岳元)(岳豊会)
 8位：小林 悠貴(娟悠)(攝友会)

<和歌の部>

入賞(プロ順)

石飛 雄三(夕響)(広島鷺夕会)
 桑山 祥博(廉祥)(鷺伸吟詠会)
 鬼頭 知里(紅紫)(鷺伸吟詠会)
 小西 武春(苑武)(濠苑会)
 山本 忠之(濠苑会)

◆平成30年度 関西吟詩全国指導者級吟士権者 決定吟詩大会 結果報告☆

平成30年12月9日(日)於：高槻現代劇場中ホール

<吟士権の部>

吟士権者：沢田千鶴香(房詠)(鷺伸吟詠会)
 6位：尾崎 安彦(魁恵)(鷺恵会)

入賞(プロ順)

第1部 阪本 和世(苑鈴)(濠苑会)
 中原 博司(慧声)(鷺伸吟詠会)
 第2部 内元 恭平(夕旺)(広島鷺夕会)
 第3部 若林 美和(夕媛)(広島鷺夕会)
 第4部 米田 真澄(秋澄)(成秋会)

<準師範の部>

準優勝：重光 弘子(夕韶)(広島鷺夕会)

入賞(プロ順)

第1部 八木きみ子(誠蘭)(鷺伸吟詠会)
 第2部 石本 哲郎(夕颯)(広島鷺夕会)
 第3部 中村 雅典(櫻照)(鷺伸吟詠会)

<師範代の部>

準々優勝：高村真由美(夕熙)(広島鷺夕会)
 6位：喜多喜美子(行卿)(やまと吟詠会)
 8位：伊藤 利博(鶴鈴)(鷺伸吟詠会)
 9位：古谷美智子(岳莉)(岳豊会)

入賞(プロ順)

第1部 木南 春樹(駿照)(鷺照吟詠会)
 第2部 菊川 節子(苑柚)(濠苑会)

<和歌の部>

6位：池田 久志(恍聖)(攝友会)

入賞(プロ順)

第3部 石本 哲郎(夕颯)(広島鷺夕会)
 天田富美子(澄慈)(澄声会)
 第4部 倉岡 英子(夕暁)(広島鷺夕会)
 第6部 阪本 和世(苑鈴)(濠苑会)

“この大会に早朝より準備、お世話を頂きました大会委員の先生方に厚く御礼申し上げます”

平成30年度 白鷺連合会理事総会

- と き : 平成30年 5月12日 (土曜日) 午後5時より
- と ころ : 海老江西コミュニティセンター

◇総会決議事項

(敬称略)

- | | | |
|---------------------------------|-------|-----------------|
| 一、物故者に黙祷 | 総合司会 | 山本翔伸 |
| 一、関西吟詩文化協会会歌合吟 | 副会長 | 片山鷺丘 |
| 一、巻頭言唱和 | 副会長 | 飯田報鷺 |
| 一、白鷺連合会会歌合吟 | 副会長 | 西村夕城 |
| 一、定数報告並びに開会宣言 | 副会長 | 川畑璋鵬 |
| 理事総数 79名 (出席30名・欠席49名(委任状)・未着0) | 総務部 | |
| 一、開会挨拶 | 総務局長 | 岩間鶴声 |
| 一、会長挨拶 | 会長 | 松尾佳恵 |
| 一、議長選出 | 司会者より | 森川源伸氏(鷺伸吟詠会)に決定 |

【議案】

- | | | |
|---|--------|-----------|
| 1号議案 平成29年度行事経過報告 | 総務部長 | 谷澤暁声 |
| 総務局5部及び女性部・青年部一括報告 | | |
| 2号議案 平成29年度会計決算報告 | 財務部長 | 児玉登春 |
| 3号議案 平成29年度監査報告 | 会計監査 | 若林鷺誓・高田朱粹 |
| 2号議案・3号議案 | | |
| 4号議案 平成30年度行事計画案 | 事業企画部長 | 古賀成孝 |
| 5号議案 平成30年度予算案 | 財務副部長 | 小林攝圃 |
| 6号議案 役員改選 | 総務局長 | 岩間鶴声 |
| *選考委員選出・・・木村虹伸(委員長)・石橋夕藻・原田天照・斎藤鷺鉄・徳稲穂晃・山本誠山
長江定啓・岡田省孝・谷本澄洪・松坂澄峰・俵積田輝孝 | | |

◎新役員

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 会長 (新任) 西村夕城 | 事業企画部長 (留任) 古賀成孝 |
| 副会長 (留任) 小井鶴伸 飯田報鷺 | 広報、HP管理部長 (留任) 塩路澄誠 |
| 岡田岳遙 | 会計監査 (留任) 若林鷺誓 村田訓洲 高田朱粹 |
| (新任) 森口雪孝 岩間鶴声 | 女性部長 (新任) 加藤扇郊 |
| 大取鷺照 酒井翔恵 | 青年部長 (新任) 中岡蒼狼声 |
| 中谷淞苑 | |
| 総務局長 (留任) 岩間鶴声 副会長兼務 | 顧問 松尾佳恵 |
| 総務局次長 (留任) 小平秋紅 | 相談役 山根鋒孝 片山鷺丘 玉森陽郷 |
| (新任) 森 壘声 | 川畑璋鵬 芳野歩孝 堂本鷺諶 |
| 総務部長 (留任) 谷澤暁声 | 参与 美濃鷺廣 中川鷺嘯 金本曙紘 |
| 財務部長 (留任) 児玉登春 | 東本秋愛 |

【その他報告事項】

- | | | |
|---------------------------|-------|-------|
| ①第57回白さぎ吟詠の集い競吟大会結果報告及びお礼 | 実行委員長 | 岩間鶴声 |
| ②創立55周年記念吟詠大会 報告及びお礼 | 大会員長 | 山根鋒孝 |
| ③その他 | | |
| ・平成30年度会員実態調査報告 | 総務部 | 森本敬声 |
| 会員数 3098名 (前年比 -162) | | |
| ・女性部 平成30年度行事計画 | 女性部長 | 加藤扇郊 |
| ・青年部 平成30年度行事計画 | 青年部長 | 中岡蒼狼声 |
| ・平成30年度会費納入についてお願い | 財務部長 | 児玉登春 |
| ・新役員・退任役員紹介 | 総務局長 | 岩間鶴声 |
| 一、閉会挨拶 | 副会長 | 小井鶴伸 |
| 一、万歳三唱 | 顧問 | 安田鷺迪 |

『白鷺の将来』に思うこと

副会長 森 口 雪 孝



『友好と調和を図る』

「本会は公益社団法人関西吟詩文化協会に所属し、故伊豆丸鷺洲師の流れをくむ者の友好と調和を図ることを目的とする。」と白鷺連合会会則に記載しています。

伊豆丸先生の座右の銘である「和と奉仕の精神」は、徹底した行動で示しておりました。白鷺の将来を考えるうえで、この精神を継承していくことが何よりも大切です。

この目的達成のため、①周年大会、②競吟大会、③チャリティー事業、④吟行会、⑤女性部大会、⑥青年部大会、⑦その他必要な事業を実施しています。何れも「友好と調和を図る」ため、会員一人一人が楽しめる事業として推進していく事が、流統を継承する我々に与えられた使命であると考えています。

『楽しく・和やかに・一心向上』

松尾佳恵前会長のスローガン『楽しく和やかに一心向上』はこれからも継承し、「白さぎの絆」をより一層強くしたいと願っております。

誰もが、詩吟はうまく成りたいと思っています。他人から「あんたはちっとも上達しないね」と言われたとしても、誰かが、「去年よりはうまく成ったね」と言ってくれます。そんな一言が「楽しく和やかに一心向上」に向かわせ、そこに「白さぎの絆」が生まれます。

「美点凝視」という言葉があります。どんなに嫌な人でも、一つくらいは良い点があります。そこを凝視すれば、必ず好きになれるものです。

原点は「吟友を増やそう」の合言葉

本会創立時は、まず「吟友を増やそう」を合言葉に、会員一人一人が情熱を持って会員獲得に行動したことでした。

関西吟詩の教本に書かれている「巻頭言」に

あるように、まず「詩吟を知っている人」を増やすことが第一歩です。そして「詩吟を好きになった人」に育てること。最終的には「詩吟を楽しんでいる人」に到達できる仲間を増やすことです。

昔も今もそうですが、会員を増やすための特効薬というものはありません。会員一人ひとりの地道な「口コミ」が最大の効果的な活動です。新入会員一人を入会させるのは至難の事ですが、詩吟をしていない人に声をかけて詩吟に誘うことは可能なことです。

一昨年・去年に声かけしてダメだった人が、今年声かけしたら教室を覗いてくれたとか、〇〇さんが声掛けしてダメだった人が、同じ教室の△△さんが声掛けした時に稽古場を覗いてくれたという事例も良く聞きます。

「誰かがやるだろう」ではなく、「私がやらねば」という情熱と意識を持てば、必ず会員が増やせることと存じます。「詩吟に誘っていただいて本当によかった。」と喜んでいただける仲間を一人でも多くつくりましょう。

詩歌朗詠で「若年層」を増やそう！

小中学・幼少年に詩吟を勧めても、極一部の身内に伝わる程度です。漢詩は、小中学では学ぶ機会さえなく、洋楽は耳にしても、和楽は聞く機会に恵まれていない現状です。しかし、俳句は小学生でも学校で教わっており、身近な文学として受け入れています。

白鷺連合会の競吟大会の種目として「和歌」が定着しており、この度「第58回白さぎ吟詠の集い競吟大会」から新しく「俳句の部」と「新体詩の部」がスタートします。吟声は、重圧な練れた声を良としますが、俳句・新体詩はまだ練れていない声の方が詩情表現に適しており、小中学生には力量を発揮できるジャンルです。また、高齢者でも入会して日が浅い方には、取っつきやすいと思われます。吟歴の浅い方には是非、俳句・新体詩の出吟を勧めて欲しいと思います。詩歌朗詠で「若年層」を増やしましょう。

副会長 酒 井 翔 恵



平成29年、白鷺連
合会創立55周年記念
大会も無事終了して
平成30年度役員改選
に伴い、鷺恵会会長、
松尾佳恵先生より、
白鷺連合会の役員に
と推挙されました。

18歳の頃、知人が詩吟の練習に行くというので訳も分からず、私も参加したのが詩吟との出会いです。

「趣味として長続きしそうにない」と思っていました。松尾鷺恵先生から「詩吟は元気になるよ」と励まされ、今日まで続いて半世紀が過ぎました。

展望などと大それたことは書けませんが、今、(公社)関西吟詩文化協会の会員数は11,543名、白鷺連合会が1/3の会員を擁しております。

高齢化がどんどん進む中ですが、10年、20年先を見据えて指導者を育て、会員増強を図り楽しく詩吟を続けましょう。

日本人の平均寿命も伸びて、人生100年時代、同世代はもちろん少し上の年代の方々にもお声がけ、そして若年層の方々にも積極的にお声がけをしましょう。

今こそみんなで誘い合い、みんなで会員を増やしましょう。



第57回 白さぎ吟詠の集い競吟大会の結果報告

平成30年4月8日(日)恒例の上記大会が開催されました。会場は昨年に引き続き、大阪府高槻現代劇場において、延べ624名が参加し、日頃の精進の成果を発表するとともに、会員相互の交流を深めた一日となりました。各部の成績は次の通りです。

新人の部 (鷺洲杯)

- 優勝 水本典枝 (志舟会)
準優勝 菅沼裕行 (浜松鷺長会)
第3位 疋田稔 (鷺迪吟詠会)
第4位 中山英甫 (攝友会)
第5位 藤本英乃 (岳豊会日高)

初段の部 (読売新聞大阪本社杯)

- 優勝 上田智祥 (攝友会)
準優勝 川崎重雄 (岳豊会日高)
第3位 井谷圭子 (鷺伸大阪伸友)
第4位 稲垣芳雄 (岳豊会豊岡)
第5位 植木厚子 (青誠会)

弐段の部 (大阪市長杯)

- 優勝 宗盛泰典 (攝友会)
準優勝 渡辺省一 (鷺照吟詠会)
第3位 太田雅代 (浜松鷺長会)
第4位 吹野忠司 (鷺声吟詠会)
第5位 虫明隆二 (鷺照吟詠会)

参段の部 (大阪府知事杯)

- 優勝 桑山祥博 (鷺伸吟詠会)
準優勝 筑摩信子 (攝友会)
第3位 鉄谷千恵子 (鷺伸吟詠会)
第4位 吉谷幸子 (鷺恵会)

上級の部 (鷺恵杯)

- 優勝 伊藤利博 (鷺伸吟詠会)
準優勝 島本寿 (攝友会)
第3位 内座由紀葉 (鷺照吟詠会)
第4位 宮崎節夫 (船場吟詠会)
第5位 和田彩香 (攝友会)
第6位 池上茂 (鷺照吟詠会)

最上級の部 (鷺声杯)

- 優勝 坂本朋義 (鷺照吟詠会)
準優勝 細木重秋 (攝友会)
第3位 池田久志 (攝友会)
第4位 佐田保朋 (攝友会)
第5位 森佳奈子 (攝友会)
第6位 坂本住子 (志舟会)

壮年①の部 (佐藤鷺照杯)

- 優勝 杉田隆利 (鷺伸吟詠会)
準優勝 香西泰彦 (鷺伸吟詠会)
第3位 太田俊六 (鷺照吟詠会)

第4位 嘉久雄才 (鷺郷吟詠会)

第5位 建部勲 (鷺声吟詠会)

壮年②の部 (伊東鷺伸杯)

- 優勝 山本進 (鷺伸大阪伸友)
準優勝 田中好子 (鷺照吟詠会)
第3位 田村明良 (青誠会)
第4位 廣田寿子 (鷺恵会)
第5位 田房喜朋 (澄声会)

壮年③の部 (安田鷺迪杯)

- 優勝 望月ミツ子 (鷺舟会)
準優勝 福井スミエ (青誠会)
第3位 齋藤勝幹 (鷺伸大阪伸友)
第4位 池口くに子 (岳豊会豊岡)
第5位 赤坂了子 (鷺迪吟詠会)

和歌の部 (鷺孝杯)

- 優勝 藤原博世 (鷺声吟詠会)
準優勝 森下ふで子 (浜松鷺長会)
第3位 内田育子 (岡山鷺照会)
第4位 小林郷子 (攝友会)
第5位 中川敏子 (鷺恵会)

連吟の部 (鷺舟杯)

- 優勝 剣持和江 (鷺照吟詠会)
空 富美子
準優勝 中山理恵 (鷺照吟詠会)
花房早苗

合吟の部

- 優勝 坂本朋義ほか (鷺照吟詠会)
準優勝 田中美恵子ほか (岳豊会日高)
第3位 阪本和世ほか (淞苑会)
第4位 森下ふで子ほか (浜松鷺長会)
第5位 内田順子ほか (鷺照吟詠会)

団体の部

- 優勝 攝友会
準優勝 鷺照吟詠会

年少の部

- 奨励賞① 森 陸 翔
奨励賞② 向 田 陽 菜
奨励賞③ 伊子木 奏
奨励賞④ 箕 輪 しおり

座談会

「新会長西村夕城先生を囲んで」

於：11月10日（土）午後7時
海老江西コミュニティーセンター
出席者：西村夕城会長・岩間 鶴声副会長
森口雪孝副会長・大取鷺照副会長
中谷湊苑副会長
（以上順不同、以下敬称略乞御許）

今号の目玉企画として、今年度より新しく会長に就任された西村夕城先生を囲んだ座談会を開催いたしました。西村新体制における正副会長方に今後の白鷺連合会の展望や会員増強をテーマとして語っていただきましたので、是非お楽しみください。



司会 「本日はお集まりいただきまして誠にありがとうございます。本日は白鷺連合会の今後の展望などざっくばらんにお話いただきたく思います。どうぞ宜しく願いいたします。」



西村 「皆さん、本日は常任理事会に引き続きお疲れのところ広報部さんの企画のため、お集まりいただきありがとうございます。先生方の貴重なご意見を期待しております。」



岩間 「まずは一番の議論として会員の減少について、ということになりますかね。以前、伊東鷺伸先生がこんなことを仰っていたように記憶しています。会員を増やすということについて詩吟と言うのは、少し最近の時流にはなかなか合っていないかもしれないね、と。如何に現状を維持するかが今は大事だと。」

会員を増やすということについて詩吟と言うのは、少し最近の時流にはなかなか合っていないかもしれないね、と。如何に現状を維持するかが今は大事だと。」



酒井 「我々が若い頃は、周りも皆んな若者だったが、それが数十年経った今でも周りは当時と同じ顔ぶれのまま。同じ年代の人を入会させるのはまだできるが、若い人に段を

取得してとか、競吟大会へ出て、というのはやはり難しくなっている。この頃は段位など要らないという人が多いしね。」



中谷 「私の会には90過ぎた方が3人いらっしゃいます。お元気で続けていただきたいと思っているので、もっと励ましていきたいです。」

酒井 「松尾鷺恵先生は常々、絶対に詩吟はいい、私みたいに元気に生きられますよ、と仰っていましたよ。辞めようかな、と思ってもこの言葉に励まされ続けている人も多い。」



森口 「会員減少は、自然の流れだから食い止めるのは困難。当時、詩吟の世界では邪道と言われた和歌の部も定着し、今年からは新体詩や俳句の部も出来た。（今年の白さぎ吟詠の集い競吟大会より新たに追加された）俳句や新体詩などのジャンルから詩吟が中高生にもっと親しみやすくなってもらえれば若返りにつながるんじゃないか、と僕はこんな夢を持っています。」

た。（今年の白さぎ吟詠の集い競吟大会より新たに追加された）俳句や新体詩などのジャンルから詩吟が中高生にもっと親しみやすくなってもらえれば若返りにつながるんじゃないか、と僕はこんな夢を持っています。」



大取 「会員の減少は、どの会も問題として捉えているでしょう。でも会員さんに“会員を増やしましょう”と言われると思う。だから私は自分で率先して新しい教場を

新しい教場をどんどん作っていくようにしている。最初三つの教場を開いたが、公民館や大学も様々な事情でなくなったりした。それでもまた自分で新しい教場を作らないといけないと思い、三年前、そして去年にも教場を作った。そしてある程度経ってその教場の形が出来てきたら、次の師範代などの指導者へバトンタッチす

るようにして、指導者も同時に育てていくようにしている。自分はまた来年、新しい教場を作る予定だが、そこもいずれは次の指導者へ譲ろうと思っている。そしてまた必ずそこでも次の指導者を育てるように言っている。未来塾で指導者を養成して、ではすぐに教室を！と言ってもそう簡単にはできない。まずは自らが範を示せば、先生が頑張ってるんだから自分も頑張ろうと思う者がきっと出てくると思う。こうやっていけば、今は少しずつであっても、将来的には減りはしないんじゃないかと思う。また会員さんの中には、公民館などと交渉してくれる協力者が出てくる。無料で借りられたりしてね。公民館は年に一度は発表会をしないといけないんだけど、その発表会を見た人が少しずつ入ってくれて、会員も少しずつだけれど増えていっている。」

司会 「以前教室探訪で大取先生の教場を訪ねましたが、皆さん発表会に向けてとても生き生きとしておられたのを思い出しました。また次の指導者にのれん分けのような形で渡されるというのも大変いいですね」

大取 「指導者は必ず年を取っていく。指導者が一人だとその方がお年を召して辞めてしまうと会員さんまで全部詩吟を辞めてしまう。やはり次の指導者を育てて次へ渡していくという仕組みができればスムーズに教場は流れていく」

西村 「教室を始めるときに一人だと難しいから、そういう仕組みがあればありがたいね」

大取 「最初教場を作るときは10人必要。少し会員さんにも協力してもらって、すぐに発表会なんかを開くと盛り上がる。それから地域の人に遊びに来てもらったり、行事をこしらえて来てもらうなどしたりして地道に活動していくのがいい」

酒井 「記念大会でリタイアの線を決められている方も多く、なかなか現状維持さえも厳しくなっている。家庭、仕事、趣味となると趣味は後回しになるものね。実際私も現役で仕事していると土曜日に出てくるのも休みを取らないといけないこともあるしね。」



西村 「本部での提案を少し申し上げると、学生も会費半額取る、幼少年も含めて正式な会員にすれば良いなどの案が出ている。私もそう思う。」

先日岡山大学さんでスピーディーで短めに詠う詩吟などを見て、学生さんにも親しんでもらえるそんな吟詠の指導をしてもいいと思った。年配の方に長く続けてもらうための指導方法ってどんなのがありますか」

中谷 「やはり楽しい雰囲気作りですかね。競吟に出なくなっても、教室が楽しいと続けて下さる。」

酒井 「うちの教室もお喋りが楽しいと言ってくる方も多し。」

西村 「今二極化していますね。競吟に出て吟を磨きたい方、そして教室に通うのが楽しいからという方。でもお茶飲んで楽しい、というのはいいことだけれど、なかなか発展には繋がらないかもしれないね」

中谷 「でもそういう方々も長く続けてはくださいますね」

岩間 「長い目で見ないといけないけれど、小さい子供も小学校を卒業したらやめてしまう。でも一旦離れても戻ってくる可能性はある。」

司会 「大取先生、学生の子たちは就職しても続けている子はどのくらいいますか」

大取 「仕事によりますね。公務員など時間が規則的な職業に就いた子は続けてくれたりして、後輩もそれに続いてくれる。でも遠いところに就職したり、夜遅くまで仕事したりしている子は少し難しいですね。」

森口 「岡山から大阪に出てきた学生が大阪で教室を見つけただけれど白鷺じゃないから嫌だ、なんて話を聞いたことがある。白鷺の仲間っていう影響は多いのかな。」

大取 「そうそう。白鷺の青年部大会に顔を出したりしているから、そこに先輩がいたりすると白鷺がいいとよく言われる。」

司会 「関大などはどうですか」

酒井 「昔は多かったけどね。」

大取 「いや、わかりませんよ。勧誘の仕方次第じゃないかな。OBの子で指導が上手い子がいる。その子は勧誘は科学だ！と言って、学生に一月くらいからマニュアルを作らせている。木曜日は20人入れる！と決めて、無理だったら反省をすぐに活かせるマニュアルにしている。本部などでも意見出しやアンケートを取ってもなかなか全部には流れない。やはりこういうのは全体に流していけばもっといいと思う。そして増えたら継続をさせる。そして楽しい教室にしていく。これが大事。」

中谷 「私は8教室持っているもので、これ以上

は増やせないから、生徒さんたちにも持っても
らっている。それぞれで増やしてくれることを
願っているのですけどね。指導者を増やしたい、
本当にそう思っている。」

森口 「昔、白鷺の青年部では年に2回、色ん
な稽古場へ行って取材するなどの活動をしてい
た。行った先々で青年部同士で交流して仲間を
増やして活発にしていた。」

酒井 「青年部主催で昔は合宿が有ったりして
活発でしたね。」

西村 「うちの会は広報部を作って教室を訪問
したいなんて言っていたけど、どんどん行くよ
うにしたらいいね。」

司会 「今は平日の昼間など、若い人に対応し
た教室も少ない気がしますね。若い人にやって
もらうことを諦めたら前に進まない気がしま
す。」

中谷 「おばあさんを教えていたら、その孫さ
んたちがしてくれていたりします。でも赤ちゃ
んが出来たりなどして決まった時間にお稽古す
るのが難しいですね。それでも続けてくれてい
て有難いです。」

司会 「大阪地区連が本部でやっている詩遊ク
ラブみたいなものを白鷺ではどうでしょうか。
吟詩日本でもそのコーナーを作る事になりまし
たが。」

岩間 「今の白鷺の人数ではそれは難しいで
しょうね。」

広報「白鷺が新しい自由な発想をして、白鷺か
ら本部に広げていくものも多かったが、最近は
そんなことも少し少なくなった気がします。」

大取 「白鷺の周年大会をチャリティーにして
寄付したらどうだろう、詩吟を通じて社会に貢
献することをしたいね。それこそ伊豆丸先生の
精神だと思う。」

西村 「チャリティーは良かったと思う。昔は
オーディションしたね。チャリティーに出るの
が目標だった。」

広報「白鷺から新しい発想を！と先輩から叩き
込まれていたが、アイデアが枯渇。最近ネタが
無くなったのかな。ワクワクしたことをしたい
ですね。」

中谷 「伊東先生が会長をされていた頃の話に
なりますから平成10年頃、白鷺の指導者を育て
ないといけないと仰って、研修小委員会を立ち
上げられた。それが何年か続いた。また指導者
を育てるそんな委員会を白鷺で作ったらどうで
しょう。組織のこともそうだが、吟の向上も大

事。吟士権者に白鷺からもっと多く輩出したい
ですね。」

岩間 「選抜して英才教育するしかないかも。
でも教室では競吟ではなく、それ以外の対象の
方が多いからね。」

西村 「選り抜きのグループを指名して教える
ものを作っていくことも必要と思っている。」

中谷 「競吟部を作っている会もありますよ
ね。」

大取 「あまり競吟ばかり言うのもどうかなど
も思う。発表会や春夏秋冬の飲み会や吟行会な
どで楽しんでいただくのがいい。コンクール主
体の人はやはり少ない。」

岩間 「でも私でも、根っこでは今よりレベル
アップしたい、と思っている。そういった気持
ちも大事にしてあげたい。」

大取 「今は指導者が練習する場所や機会が少
ない人も多い。そういう場を作ってあげると指
導者ももっと上手くなって元気になってコン
クールへ出る励みになると思う。」

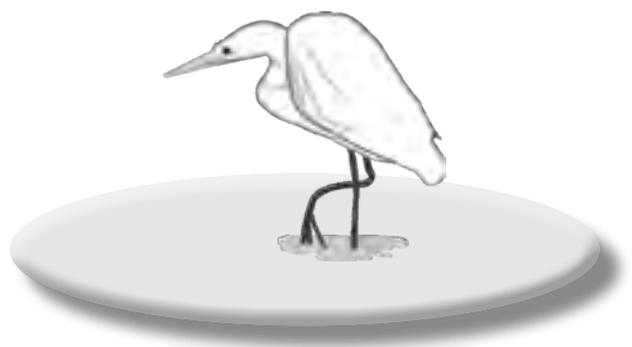
司会 「やはり上手い先生には人が集まる。吟
力も大事という事ですね。」

全員「そうですね。」

森口 「参考になるかわからないが、今、自分
の会では指導部で毎月集団指導体制を取って、
特訓の場でしっかりした吟法や間違いのない吟法
などを徹底してやる場に行っている。場合によ
っては、潰れる支部があると聞けば、講師を派遣
したり、その支部の師範代などが指導者に育つ
までサポートしたりする体制を作っている。ま
た3段以上が参加できる楽せい塾などで若手の
指導者を育てたりしている。」

司会 「良い意見がたくさん出ました。本日は
大変ありがとうございました。」

全員 「ありがとうございました (拍手)」



白鷺連合会『第5回 白さぎ交流会』のご案内

平成30年11月吉日
白鷺連合会会長 西村夕城
白さぎ交流会実行委員長 古賀戌孝

謹啓

朝夕がめっきり寒くなってまいりました。先生には益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。平素は白鷺連合会の諸行事に積極的にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、表題のとおり、『第五回 白さぎ交流会』を開催致します。

今回は第58回白さぎ吟詠の集い競吟大会に「新体詩の部」「俳句の部」が新設されました。つきましては「研修会」と「模擬・競詠」を下記の内容で開催いたしたくご案内致します。

開催場所 西淀川区民ホール 大阪市西淀川区御幣島3-13-3 (別紙地図参照)

開催日時 平成31年3月10日(日) 午前10時開会(9時30分受付)

◎会員増強表彰

今年度表彰団体 🌸鷺照吟詠会(13名) 🌸鷺郷吟詩会(5名) 🌸広島鷺雲会(5名)

◎新体詩・俳句研修会 対象教本はDその一、単行本D11、D17号

朗詠指導 中谷淞苑先生 大取鷺照先生

朗 詠 塩路澄誠先生 谷澤暁声先生 他

◎模擬・競詠 ①競詠は参加者よりあらかじめ会主・会長よりご推薦。

②第58回・競吟の審査委員、伴奏担当で模擬対応。

《明るく 楽しく 明日をえがいて 温故新生!》の下に、和やかに親睦と交流を深めたく、何卒、趣旨をご理解賜り、是非ともご出席頂きますようお願い申し上げます。

追伸

1. この案内は各会の会長にのみ発送致しております。貴会の出席者のとりまとめをお願い致します。(対象参加者は相談役・参与・会主・会長・支部長・会からの推薦者。※中堅・若手の参加も歓迎します。)
2. 遠隔地からの参加者には交通費の半額補助を行います。白さぎ交流会支出予算の都合上、会・支部1名の補助とさせていただきます。多数のご参加をお待ちしております。▲※ご不明の点は古賀戌孝(☎072-847-6206・携帯090-8212-2491)までご連絡下さい。
3. 参加費として一人2,000円をお願いいたします。(昼食と懇親時の軽食を準備します)
4. 対象教本はDその一、単行本D11、D17号です。お持ちでない方は参加申し込み時にご注文を、すでに購入してお持ちの方は当日ご持参願います。

※締切り 平成31年1月末日までに同封のはがきにて、返信願います。

白さぎ吟行会 大阪大会 IN 大津・案

日 時：2019年10月26日（土）～27（日）

場 所：ロイヤルオークホテル

滋賀県大津市萱野浦23-1

TEL 077-543-0111代表 FAX 077-547-2209

第一日目 2019年10月26日（土）

8：30 大阪発（大阪駅・郵便局前）

12：00 受付開始

13：00 吟詠交流会（大阪・浜松・名古屋・豊岡・奈良・広島・岡山）

16：00 交流会終了 部屋割り

18：00 懇親パーティ開宴

20：30 閉宴 自由時間（ホテル泊）

第二日目 2019年10月27日（日）

7：00 朝食 ～8：30

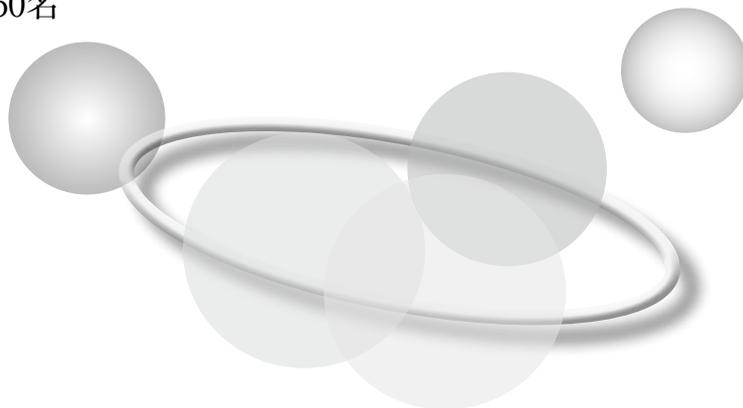
9：00 観光 三井寺、瀬田唐橋、石山寺、浮見堂（予定）

12：00 昼食

14：00 解散

17：00 大阪帰着予定

- ・ 懇親会参加者150～200名（日帰り含む）
- ・ 宿泊者150名



※詳細は後日決まり次第お知らせします。

攝友会創立60周年記念祝賀会

平成30年4月29日（土）午前11時、太閤園に於いて、午前11時「公益社団法人 関西吟詩文化協会 公認攝友会の創立60周年記念祝賀会が開催されました。

今回の大会テーマは「^{きわみ}極」です。

60年の歴史は、現在の会員と過去に在籍された沢山の先輩諸氏全員の実績です。この節目の年に過去を振り返り、反省もし、そして未来へ引き継がねばなりません。

大会テーマの「極」の選定にあたっては、全会員から募集して決定しました。

極則必反、すなわち物事は^{きわま}きわまれば必ず元にかえる。干支（十干十二支）が一巡し誕生年の干支に還る還暦の意味も合わせ、創立60周年を迎える本大会のテーマを「極」としました。

大会次第に沿って、開会の辞、物故者に対し黙祷、国歌斉唱、巻頭言唱和、関西吟詩文化協会会歌、攝友会会歌合吟後来賓の祝辞では、舞台にご登壇頂きましたご来賓の先生方に、攝友会選りすぐりの美女から花束の贈呈を行いました。

記 岳野 恍輔

「来賓祝辞」

山岡哲山先生



矢間紫水先生



会員吟詠「極」



地藏哲暲先生



「式典」

森口大会委員長挨拶



大橋鷺迅先生



松尾佳恵先生



関西吟詩文化協会総本部

(女性) 白帝城



「芳野会長の謝辞」



関西吟詩文化協会総本部

(男性) 富士山



「来賓吟詠」

白鷺連合会 (女性) 江南春望



関西吟詩文化協会総本部部长 惜花



大阪府詩吟連盟理事長 海南行



白鷺連合会 (男性) 望海



愛国詩吟総連盟理事長 あさみどり



船場吟詠会創立50周年記念大会

「夢海游 淡路島」で開催

船場吟詠会 市川 朋森

創立50周年記念大会が平成30年10月27日(土)～28日(日)に開催され、38名が出席しました。

前日からの雨も上がり午前九時に大阪駅をバスで出発し淡路島に向いました。

途中、薫寿堂でのお香体験、昼食、伊弉諾神宮を経てホテル「夢海游」に到着。車中では「青葉の笛」の元歌の歌唱指導、伊弉諾神宮では神殿にむかって「寄家兄言志」を奉納しました。

ホテルに到着後直ちに記念式典を行い故井上鷺孝先生、西森鷺森先生に対し黙祷、山根会長、室屋理事長の挨拶、表彰式と続きました。式典の最後に谷澤暁声先生作の構成吟「日本漢詩紀行」を約一時間全員参加で行いました。

“式典は厳かに、構成吟は和やかに”を合言葉に船場の結束を一層固めた瞬間でした。一風呂浴びた後は懇親会が行われ、手品、ユニークな詩吟ビンゴで楽しい時間を過ごし、最後は「王将」「星影のワルツ」で全員輪になって結束力を確認し会いました。

翌日は、平岡農園でのミカン狩り、福良港から咸臨丸に乗りうずしおクルーズを楽しみました。思い出に残る、充実した2日間でした。

50周年大会の目的は「故井上鷺孝先生、西森鷺森先生始め船場吟詠会を支えて下さった先人達に感謝しつつ、会員相互の結束を一層強化する」ことでありました。

終わって見れば「小粒ながら、キラリと光る船場力」を大いに発揮できた大会であったと思います。大会に寄せられた各方面の御協力に感謝しつつ、又新たな50年に向かっての決意を確認しあった記念大会でした。

以上



関西大学吟詩部
創立85周年・再発足65周年
記念吟詠発表大会



平成30年11月24日（土）午後2時より関西大学KUシンフォニーホールに於いて関西大学吟詩部創立85周年・再発足65周年記念吟詠発表大会が開催されました。



開会の辞の後、眞澤琴実部長のエール先導により関西大学学歌を斉唱し、関大吟詩部部詩を合吟致しました。プログラムに基づき、これより第一部 吟詠のひとときです。

部員吟詠（独吟）OB吟詠（合吟）初代～20代、21代～63代、部員吟詠（剣舞）と続きました。友情吟詠「明治大学詩吟研究部」、賛助吟詠「岡山大学吟詩部」の後は、OB独吟、現役・OG合吟と会場は次第に活気を浴びてまいりました。

第二部は記念式典です。黙祷のあと、挨拶並びに祝辞が述べられました。

関大吟詩部第65代主将 眞澤琴実さん、関大吟詩部OB会会長 谷澤弘喜氏、顧問教授長谷部 剛氏、関西大学吟詠会会長 森 順道

先生 吟詩部指導歴代師範の祝吟並びに剣舞師範の祝舞が披露されました。

休憩を挟んで、第三部は構成吟「澗つくし」
“淀川は今日も流れる 幾世紀の歴史を秘め、
あるいは澗み、あるいは流れ 時として激しく、
折りとして緩く 生い茂れる葦のかいまをぬい
流れる 流れる”

第7代主将OBの（故）高見信幸氏が書き下ろしたもので、関大吟詩部OB会創立60周年記念で制作されたCDの復刻版として上演することになりました。現役とOB選抜吟士による詩歌吟詠は、誠に聞き応えのあるもので、会場を魅了しました。

余韻冷めやらぬうちに大会は無事に終了、場所を学舎内すぐ横にある凜風館へと移動、第四部の記念祝賀会が始まりました。

乾杯の音頭は、第二代主将OBの伊東誠一氏により声高らかに行われ、「乾杯」の大合唱で頭上高くあげられたグラスのビールを飲み干す、これまた格別の美味さよ！立食各テーブルで食事をしながら歓談が暫し続きました。持ち込まれた祝い酒のご披露とともにすぐにコップ酒、酔いが回って各代ごとのセレモニー、あっという間に時間も過ぎていく。あちこちで談笑が絶えず、懇親会も佳境に入ってきました。最後は、肩を組んで円陣、大きな声で逍遙歌です。エールを送り合ういつもの風景です。閉宴の挨拶でプログラムは全て終了、又の再会を祈念して。



記 塩路 澄誠

講師・支部長奮闘記

学生吟界事情今昔

関西大学吟詩部
責任講師 齊藤 鷺鉄



手元に古い集合写真があります。“昭和36年11月23日 全国学生詩吟連盟第6回吟詠発表大会 於 関西大学”とのメモ書き。その時の参加校は24校。天眼鏡を使用しなければ識別でき

ない350名超の学生が顔を連ねている。

その中に、何と宮崎東明先生と伊豆丸鷺洲先生のお元気なお顔も拝見できます。関西大学での開催と学生吟界育成の為ご臨席賜ったものでしょう。ありがたいことです。

その後も学生吟界は発展を続け、記録によると昭和44年北九州市で開催された第14回大会が最後の全国大会となったとあり、その原因が参加校（80校以上）・吟友（二千名超）の激増が開催担当校の負担増に繋がり正常な大会運営が難しくなった為とあります。隔世の感がしますね！ これほどの隆盛をみた学生吟界も、現在では全国組織も無くなり、嘗ては20校以上の参加校を数えた関西地区で、現在も活動を継続しているのは関西大学・岡山大学と他は???の状況となっています。

この学生吟界の衰退に切齒扼腕しているのは各校OB・OGの皆さま方でしょう。

翻って我が関西大学吟詩部。昭和8年に創部。その後太平洋戦争勃発・終戦の為止む無くその活動を中断。昭和28年に再発足。当時の「関西吟詩同好会」宮崎東明会長のご推薦で伊豆丸鷺洲先生を指導講師にお迎えし活動を再開いたしました。翌昭和29年4月“関西大学文化会吟詩部”として正式に承認されると共に順調な発展を続け、再発足10年後には総部員数100名超のマンモスクラブにまで成長いたしました。

然し昭和45年頃から新入部員の確保が二桁を割り込むようになり、昭和から平成に年号が変

わった頃には総部員数一桁の時代を経験。部の存続すら危ぶまれる状況を体験しました。

現在は、私にとっては孫と同年代の第67代の新入生を迎え、総員11名の部員が“山椒は小粒でも・・・”の意気込みで、週1回の師範練習・剣舞練習と適宜実施の補修練習会を通し熱心な吟詠活動を続けております。

この学生達、昨年は

2月 白鷺連合会青年部大会

3月 関西吟詩総本部青年部大会

10月 関西吟詩創立85周年記念吟詠大会

の大きな舞台に立たせていただきました。

願っても恵まれる機会の少ない大舞台の経験は、部員達にとりまして大きな財産となり将来の人格形成の面でも大いに役立つものと思います。加えて11月には

関西大学吟詩部再発足65周年吟詠大会を現役・OB会共催で開催いたしました。この大会を通じ脈々として伝わる“クラブ愛”“伝統の重み”を実感したことでしょう。

現在の学生！当然ですが“授業最優先”の考え方が強く、学校当局の諸々の規制と相まって部員獲得に苦闘しておりますが、創部以来86年の“関西吟詩部伝統の灯”を消すことのないよう尚一層現役諸君共々努力を続けていきたいと思っています。



『仲間とつくる支部活動』

青誠会八鹿支部 川 角 誠 庵



今年の5月、コウノトリの雛が初めて誕生した八鹿。兵庫県北部、豊岡の南に位置する養父市にあるのが八鹿支部です。

大阪に本部があり大阪北、南そして八鹿の3支部

があります。

八鹿支部は発足当時1教室から始まり、この10数年ほどで、お隣の和田山教室も含めて5教室になりました。

これまで歩んでこれたのは、仲間たちの地道な働きかけが実を付けたからだと思います。『詩吟を始めませんか』と、詩吟の楽しさなど勧誘のチラシを作成して、家庭へのポスティングも幾度となくやってきました。

また文化祭やイベントに参加してプログラムへのチラシ折り込みなども行いました。これは今でも続いています。友人知人への声掛けも大きな力となっています。

ここで八鹿支部の活動の一端を紹介します。青誠会総会新年交歓会で一年がはじまり、4月の「白さぎ吟詠の集い競吟大会」をめざして練習に身が入ります。

6月、青誠会昇段交歓会、8月、岳豊会主催の「講演と研修会」に声をかけて頂き、八鹿支部も参加させていただいています。秋は文化祭の季節。八鹿、養父、和田山と各町のホールの舞台に忙しくも楽しい時間を仲間と共に過ごします。

そして一年も終わりの12月、八鹿支部錬声会で一年の詩吟納め。青誠会の講師の先生方にも来ていただき、緊張感のある雰囲気の中でとても良い発表会となります。

それが終わると恒例の忘年会。趣向を凝らした「お楽しみ」やゲームで年忘れ、いや歳忘れ？一年の締めくくりとなります。

古希を過ぎた私ですが、習い事、趣味があるっていいですね！人に教わることは謙虚になれます。

年齢差も通り超し、学ぶことも多くあり、心が豊かになる気もします。

「友達でライバル」「教えたり教わったり」と。これからも多くの仲間と共に詩吟を楽しめたらと思っています。

げげっ、結果マイナス!?

公認・鷺伸吟詠会 森 川 源 伸
愛知やわらぎ支部 支部講師



会員増強は、現在会員を口説き落とすところからしかはじまらない?ようだ。

だから、私は会員に「詩吟を聴く会」を根気よく開催してもらって、詩吟の効用やら、詩歌や作者、作中

人物の面白エピソードを山盛り仕込んで、いざ出陣することとなる。

集まる人は、やはり高齢者だが、多いときは10人を超え、詩吟というものに拒否反応はなく、いや、むしろ何となく親しみを感じている人が集まる。

だから、講座内容に食いつきはいい。うんうんと頷き、「声を出してみましよう」にも熱心に応じてくれる。

で、終わって、「会員になって、練習に来てくれる?」と誘うと「う〜ん」で終わり。ところが、そんな冴えない返事の人が後日、「聴く会、もうやらないの?」と問う。

そこでまた、脈ありと、聴く会を開く。

すると、同じメンバーもかなり出席(これはいいぞ)と、「会員になって、練習に来てくれる?」と再び誘うと「う〜ん」で終わり、なぜ?なぜ入会してもらえないの、原因はなに?と悩む。

さらに、ある情報によると、わが支部の最新の分会には、聴く会のメンバーの数人が遊びに来るらしい。だが、入会したわけではなく、純粹に?見学者らしい。

さらに、その人たちは「聴く会」の設定までしてくれて、「講師で来てね」との依頼さえあり、分会講師は他の会員を誘って、せっせと出掛けられているらしいのだが、会員増強にはつながっていない。

他の支部講師連中にこんな話をすると、「ある、ある」なのだそうだ、それでも、今日も、会員を口説いて、「東明未来塾」や「吟道大学」へ支部負担で会員派遣し、「最低限のお返し」にと「聴く会」をセットしてもらっている。それでも増えない。

そうこうしているうちに、教場の中心人物の「家庭の事情で退会する」という一言に、我も我もと「分会消滅」。これも「あるある」(実際

にあった)これは早い。

結果、「げげっ、マイナス!」落ち込みますよね。

でも、また、詩吟を聴く会を根気よく開催してもらって、詩吟の効用やら、詩歌や作者、作中人物の面白いエピソードを山盛り仕込んで、いざ出陣する。いつか、悲鳴を上げるほど新入会員が押し掛けるのを夢見て、って、これ奮闘記なのかな? 愚痴なのかな?

知的好奇心を持って

鷺声吟詠会 森 璽 声
吟鶺会支部



吟鶺会は、故塩谷鷺声先生を師に仰ぎ、昭和32年に関西大学吟詠部のOB会として発足したのが始まりです。

関大吟詠部の卒業生を会員に加えるとともに、当時の吟道の隆盛が相まって、OB達が職場や地域において分会・教室を創設して会員を増やしてまいりました。

しかしながら、吟界の人氣が徐々に下がり、また、社会情勢の変化により関西大学夜間部が閉鎖となったこと等により、現在は関大吟詠部のOB会と八分会の構成となっております、ご多分に漏れず会員は減少の一途を辿っています。ただ、定年を迎えた元関大吟詠部員が再入会を果たす場面が出てきたのは嬉しいところがあります。

支部長としての心境としては、会員が増えることを眼目に置いていますけれども、まずは、同じ趣味で歩んできた会員同士が励まし合って、明るく楽しく何時までも健康で幸せに過ごすことができる吟鶺会でありたいと願っています。

目標を持って、人生を前向きに豊かに生きることの大切さを認識し、生涯教育における詩吟の素晴らしさを感じ取り、奥が深いと言われる詩吟にチャレンジする元気なシニアであっていただくよう働きかけて行きたいと思っています。

人生百年の時代を迎え、六十の手習いならぬ、これからは七十・八十の手習いの時代です。私もまだまだ競吟大会にもチャレンジして行こうと思っています。舞台上上がるとドキドキしま

すが、その非日常的なドキドキが体に脳に刺激を与えてくれます。

会員の皆さまには、「知的好奇心」を持って、吟を探究し楽しんでいただくとともに、練習後の乾杯で、和気あいあいと語り合う至福のひとときを持ち、豊かな人生を送って戴きたいと願っています。

白鷺連合会会員の皆様、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

